



第14回 GX実行会議 「我が国のGXの加速に向けて」

2024年12月26日
出光興産株式会社
代表取締役社長 木藤 俊一

GX2040ビジョンについて

1. エネルギーセキュリティと現実的なトランジション

- これまで申し上げた「**S+3Eの大原則**」、「**液体・固体燃料の重要性の再認識**」、「**燃料の脱炭素化とエネルギーセキュリティの両立**」について、意向を汲んだ内容を記載いただき感謝
- 一方で、「**燃料の脱炭素化とエネルギーセキュリティの両立**」のうち、これまで申し上げてきた「**海外の資源・権益の獲得**」については、今後の取組として、改めて以下をお願い申し上げる

「海外の資源・権益の獲得」

- ✓ 諸外国との相対的なエネルギー価格差の抑制・安定供給という観点から、トランジション期における燃料の低炭素化・脱炭素化に資する海外の資源・権益（価格競争力のあるバイオ原料・クリーンな水素等の製造が可能な再エネ適地等）の獲得は重要
- ✓ GX2040ビジョンに記載のCCS貯留権益確保に加えて、これらについても政府の外交的な支援等は必要

GX2040ビジョンについて

2. 市場環境整備と投資予見性

- これまで申し上げた「**脱炭素価値が評価されるグローバルな市場環境・ルール整備**」についても、意向を汲んだ内容を記載いただき感謝
- 一方で、これまで申し上げてきた「**国民理解の促進**」、「**継続性ある支援策**」については、今後の取組として、改めて以下をお願い申し上げる

「国民理解の促進」

- ✓ カーボンプライシングなど脱炭素化を促進する上で伴うコスト負担は社会全体で最適化すべき
- ✓ 脱炭素化に伴うコストアップを受容する国民意識の醸成が必須であり、政府の効果的かつ積極的な広報、政策の展開が重要
- ✓ トランジション期には、広報によるGX製品の認知に加え、需要家や最終ユーザーである国民がGX製品の購入に際してインセンティブが働く施策を行うことで、購買意欲を刺激することも必要

「継続性ある支援策」

- ✓ 継続的な脱炭素への取組のために、各産業の特性を踏まえつつ、適切な規模・スピード感をもった切れ目のない支援策が必要